

第26回議会報告会 報告書

彦根市議会議長 安藤 博 様

市民産業建設常任委員会 杉原祥浩

開催日時	平成30年 7月13日(金) 19時00分～20時30分
開催場所	彦根勤労福祉会館 4階大ホール
出席議員	<p style="text-align: center;">議員氏名(役割)</p> 赤井 康彦 委員長(開会挨拶) 辻 真理子 副委員長(閉会挨拶) 夏川 嘉一郎(受付) 山内 善男(冒頭報告) 中野 正剛(受付) 安澤 勝(司会) 杉原 祥浩(事後報告書作成) 安藤 博 議長 馬場 和子 副議長
参加者数	一般来場者46名(滋賀大生、東近江市議会議員、奈良市議会議員を含む) 議員9名、議会事務局員5名
内 容 (内容及び時間 配分)	19:00 開会挨拶 赤井委員長・テーマ「考えよう 彦根の農業」 19:05 議員紹介・ホームページ、広報等への掲載、報道提供の説明 資料確認、カタリバについて説明、ワールドカフェ説明 19:15 「第1ラウンド」 各テーブル内で自己紹介、対話 「担い手育成・有害鳥獣対策・特産物開発 どうすればうまくい く?仕組みや取り組みを考えよう」 19:35 席移動後「第2ラウンド」 第1ラウンドについて、自分のテーブルで出た意見を持ち寄って 各テーブル内で自己紹介、対話 19:55 席移動後「第3ラウンド」 各委員・参加者は、シャッフルされていた第2ラウンドで得た意 見を紹介し合いながら対話に入る 20:15 「全体セッション」 各委員・参加者は他のテーブルの模造紙に書かれた内容を見て回 る等 20:25 閉会挨拶 辻副委員長・アンケート記入 20:30 終了

主な質疑応答、
議会への意見
(話し合いの内
容)

今回は10テーブルにわかれて、ワールド・カフェ形式で実施、以下に主な意見をまとめました。

農業イメージ

+イメージ

食料に困らない・つくるよろこびを味わえる・とりたて野菜が食べられる
過酷だけどやり甲斐がある

-イメージ

自然に左右される・しんどい・暑い・儲からない・時間の拘束がきつい
労働の割に給料が安い・365日休みがない？

①担い手育成

②有害鳥獣対策

③特産物開発

解決するには？・収益をあげる・国の補助を求める・農業法人を作り、加工も行う

安定した収益 → 担い手ができる・農作業の方法を変える・販売網を工夫する

収益とやり甲斐UP・法人化する・バラで売上1億円 年収3千万円

干渉地帯に牛を飼う・外国人がやるようになる？・インターン制度

食料自給率保持する・生活できる収益の保証・牛を飼うことで有害鳥獣寄ってこない

地域商社 あぐりステーション・六次産業化 ひと工夫 加工

国の補助 小さな単位にも・農地が守られる・愛東マーガレットステーション

市の補助あり・付加価値をつける・彦根梨が有名・国の補助の見直し

農業で収益見込めるなら担い手興味持つかも・5～10年を要する

キャベツ作る カット野菜にしてしまう（1年かかる）・トラック市 銀座で

付加価値 やりがいなど → 若者がやる気を出すような

商品力のある農作物の作成 = 魅力あるもの

農業の経験を！・国の政策 現実味がない・農業の企業化！ダメ！

協働組合 家族農業がよい・後継者がいない

今農業をされているお年寄りの方々がいなくなったらどうする？

危ない 儲かるように保証・ヨーロッパのマネ？・バランスよく規制緩和

収益 → 計算 → 計画 → 意識改革 いやいや楽しい → 専門知識 → 国か市

若い人もチャレンジ → どの年代的にも勉強

効率性・農地活用に問題・悪循環・若い人に魅力・新しい人が始めやすくする市場

費用>収益・若い人が来ない・1.開耕・2.田んぼ・マーケットの確保が必要

政治の姿勢に問題・65歳以上しか農業をする者がいない

人口減少の中での担い手育成は難しい・農業は難しい・後継者が作れない

目標をもってやらなければダメ・楽しい農学にしなければいけない

担い手育成の未来は暗い・継続可能な発展（SGS）の方向を求む

国際協同組合同盟（ICA）の方向しかない・政策のイメージの問題
海外に依存・付加価値の商品化

農業が商売になるという意識・やりがい・もうからない・大企業でも人材がやめていく
資本・農業を大事にしない風潮・なぜ農家だけ補助金が足りない・IOT
農業者のための農協・環境 First になりたい・食料はあると思うな・よりそえる農協
農協改革・農業従事者に評価を・国連が主張する・農学協働組合体制をとるべき
それ以外に我が国の農学の未来はない・国が農業を軽視している
ブランドづくり、マーケティング・商社→つくり手側厳しい？・無農薬
農薬の規制が日本は厳しい・規制のウラ・規格通りに農産物はできない
消費者のせい？・野菜が難・米作りが一番楽（機械・放置）・法人が全国に農地をもつ
天候による → 守られるべき・リスク分散・ローソン・儲からない・手間・消費者

法人化 できるところできないところ・できないところは市街化 or 田んぼ
始め方がわからない・他の仕事がいい・ひこね梨・
農業を仕事にする教育が行われていない・農業は儲からない
補助金 → 食べていける 経費で消える・手取り 500～600万（米）
税金・農協・農業面で赤字・資本主義に不向き？・守られすぎ？・民間・JAだけ
販路を増やす
さる・しか・イノシシ 囲いを作る
適度に銃で殺す → 数が減る 動物愛護団体と対立
買う人が値段をつける・生きがい作り
持ち主が不明な農地を政府が貸し出す・外国人の方でワーキングホリデー
若者は機械に強い・共同事業をして機械を使える人を起用

毎日手入れは大変・維持するのは？・法人化されているところ○
会社化すると人件費がきつい・パート化・60以上の方々に → まだ働く
儲からないイメージ・一人じゃなくみんなで積極的に参加する
家族全員で農業するから成り立っていた → 核家族化の問題
奨学米・金→米・季節ごとに若い人と一緒に農業・大学の学祭などで販売
農業＝商売・農作物を売りこめる人を
直売所は作った人が値段を決められるが手数料を引かれることも
有害鳥獣対策 → 有害ではない
農業を志しても農地を買えない・5、6ha 専業農家人件費 → 赤字 法人化
農業組合 60歳で定年 → 延長65歳・次の世代が農業を知らない

給料を高くする・給料高くないと中々農業に就職する若者いない
梨もっとアピール・給食定期的に入れたり・コネクション 売り方 販売網
ブランド力で差別化イメージ・小学校・中学校で教育・バラ 年商1億円
農業イメージアップ・週休2日・道の駅の直売所
農業＝生きがい健康維持・会社フレックスタイムでやっていく
なぜイメージ低い・儲かってない人 儲かっている人

マンゴー農園をしたい・農業を楽しくする・会社設立 → 経営化
愛東マーガレットステーション → 特産品販売 → 消費推進
夢・レンタル カウ・市役所職員の免許取得・彦根ワイン・ひこねビール
兼業農家が多い・彦根市ではイチゴ（古都香）・茶（大和茶）・日本酒

会社化・あいとうメロン・子供から大人まで食べられる 例えばカレーライス
大学生にアルバイト体験・定年が近い人 → 退職後農業・会社員が農業を行う
里山・農業にもっとお金を！・農業体験 インターンシップとか
区域厳しい 補助金出てるから逆に

彦根 畑作少ない 増やして地産地消 技術 機械の問題

家族の在り方の変化 子供世代がやり方知らない

彦根 観光をおしすぎた？ → 人は残らない → 残ってくれる仕組み

若い人 東京へ行ってしまう 滋賀大にも彦根の人少ない

地元で残ってくれるには？（一部残ってくれている人もいる）

彦根特産物 梨 担い手不足で続いていかない可能性大

東近江市問題

ステーキで食べられるところがない

大学で農業学まなぶ仕組みがある（県大）

彦根市問題

お酒造っているところがない

東京アンテナショップに彦根のものがない

担い手充実・畜産・野菜 → 平和堂・儲かる仕組みをつくる 道の駅

国内だけでなく世界にも・クオリティ 高・日本の良さ生かす

参考 5町→現実ではない・280万円/年・50町農家は減少

小規模農家は苦しい・米の需要を増やす米<おかず

便利になってきたからこそ農業が難しくなっている・IOT化社会に対応する

若者は大変さや過程について知らない=農業の大切さを知らない→守る仕組みがまず必要

農業のイメージUP・年配の方がする 大変

学生に下宿先をあげて農業を手伝ってもらう → 地域のお祭りなどにも参加してもらう

ブランド化 多くしすぎるとただの名前・奨学米 大学生 協力 農家

5町の+倍・国の補助が前提・5年しか補助が出ない

契約をとるとノルマ達成することが困難

大規模農業・担い手もいる個人になると厳しい

整備されていない土地では難しい・鳥居本 仏生寺みそ

土地は買っても田んぼは買えない・今までやっていない人・・・急にできる？

儲かる仕組み 道の駅・売り場を作る・商業と農業を組み合わせる

日本の農業のよさ・新しい取り組みに寛大になる必要

海外から勉強しにくる人の受け入れ・担い手 どれだけ地域に入っていけるか

地域の仕事をしないとダメ・大学の下宿先として空き家を貸す
学生と協力して農業をする いなか 保守的なところもあるのに学生はうまくやっていける？ 一人より複数で
インターン 民宿 大学と連携 単位もらえる → 発信の仕組み
若い人に対して体験できる場など設けてあげる
職業の選択肢としては・・・もつ人はあまりいない？
農業のイメージ 大変・年配の方がする
若い人だけではなく年配の人に対しても機会をつくっていく
グループを組む・J A・道の駅などスーパーにも直売所
初期費用が高い（行政が頑張る）・交通費を考えれば将来的には安くなる
洪水・天候 → 保険？国が補償すべき・イメージ先行になっている
労働時間・休みがない → ホントは基本週休2日・スイトウ
つくるものを考えて残業手当を出したり普通のサラリーマンと同じ
農業は儲かる！別に特殊なものじゃない・適当規制・楽しい・儲かる
将来性もある

・

※ 添付するもの

- ・回収したアンケート
- ・写真数枚（当日の様子がわかるもの、データ提出も可）

※ 提出期限：開催後、7日以内に議会事務局あて提出